2018-2019年度

Rotary
丸亀ロータリークラブ

RI会長
バリー・ラシン

インスピレーションになろう

まるがめ

週報

2018.8.23
Vol.56
№7
（2718）

会員数 60名　出席者46名・欠席者13名・免除会員2名
欠　席　者　麻田・後藤・和泉享・加内・眞鍋・倉田・松山・森・野口・岡田
中野昌・武中・富田-会員

前々回出席率　84.48%（8/2）

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会　　長　川原　一夫
幹　　事　福田　洋子
会報委員長　岡田　将一郎

お知らせ

∵ 8月のプログラム
2 (No.1)-ｸﾗﾌﾞﾌｫｰﾗﾑ
9 (No.2)-会員卓話
16 (No.3)-休会
23 (No.4)-会員卓話
30 (No.5)-研修会報告

∵ 他RC例会変更
丸亀東　9/14　夜間例会
9/26　夜間例会
善通寺　8/29　移動例会
坂出東　9/5　夜間例会

∵ ニコニコBOX;
よいことがありました
秋山憲夫君
卓話を無事終えて
大熊君

<ニコニコ会計累積/￥72,623>

∵ がんばるBOX;
出席できなくて
竹内一美君
早退します
中川君

<がんばる会計累積/￥77,000>

例会場・事務局　丸亀市塩飽町50―3　丸亀プラザホテル内

■会長報告
古今東西の作家の〆切に関する苦悩、言い訳を集めた本を紹介します。何となく面白く、勇気が湧き、身につまされる話です。源氏鶏太は直木賞受賞作家で、会社員と作家との二足のわらじを履きながらサラリーマン小説を書いたことで知られる作家です。書けぬ時は、深夜の町を歩き始める。1時間でも2時間でも、歩き続ける。歩き疲れて、家に帰る。書斎に入るが、やっぱり書けない。また、外へ飛び出す。そういうことで、夜の明けるまで歩き続ける。ひっそりと立っている樹木を眺めて、「俺は、樹になりたい。」と思ったことがある。山本周五郎の日記には、金がない。書けない。童話を書き始めたがだめ。明日やる。今朝公園で球抛をやったので体の調子が狂ったのだ。昼麦酒を呑んだ。もう呑まぬ。本当に呑まぬ。明日からやる。本当にやる。ラデオ・ドラマも書く積り。18日までに35枚ばかりのもの。本当にやる。やると云ったらやる。今夜は寝る。心は慰まない。吉川英治の友に当てた手紙には、どうしても書けない　君の多年に亙誠意と　個人的な僕へのべんたつやら　何やら　あらゆる行為に対してはお詫びすべき辞がないけれど　堪忍してくれた前どうしても書けないんだ。　著名な作家も〆切に終われ、悶絶の中から、名作が生まれたことがわかります。名作を読む時の視点が変わったように思いました。

■幹事報告
1. 8月11日会員増強地区セミナーとクラブ研修リーダー育成セミナーに出席してきました
2. 中野大岳さんの入会に対して異議申し立てがありませんでした
3. ガバナー補佐の立候補者がいなかったので、30日の例会後選出委員会を開き決めます。
4、地区大会の回答が未だの方はお願いします
5、香川分区合同親睦ゴルフは11月23日開催します。その日の午後　IMの予定が変更になり、31年3月9日午後アイレックスで開催となります
6. 7月の豪雨災害への義援金の内訳　募金箱41600円　社会奉仕基金58400円となりました。

■例会事業;会員卓話;シリーズ箴言①　大熊会員

私が丸亀ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞに入会したのは平成7年9月です。平成7年は阪神淡路大震災、ｵｳﾑ真理教地下鉄ｻﾘﾝ事件等、騒然とした年でした。私の父はﾁｬｰﾀｰﾒﾝﾊﾞｰとして入会し第5代会長を務め、32年間会員としてﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞを楽しんでいました。奇しくもその年の4月に体調を崩し突然7月1日に82歳で亡くなりました。その後諸先輩に勧められ9月に入会した次第です。

卓話1：父との思い出、戦中戦後と家族について

私の生まれたのは、昭和17年1月1日です。私の最初の記憶は，敵機来襲、空襲警報発令の声、防空壕へ逃げる時に転んだ事、そして母と姉と土器町へ疎開していた事などです。

2018.8.23
Vol.56
№7
（2718）

父は30歳の時、戦勝気分が大きく高まっていた昭和16年11月に丸亀歩兵112連隊の一員として坂出港から軍用船に乗り、ﾌﾗﾝｽ領ｲﾝﾄﾞ支那(ベトナム)のﾊｲﾌｫﾝ港に上陸し、ﾀｲを経由してｲｷﾞﾘｽ領であったﾋﾞﾙﾏへ進軍しました。父が私の誕生を知ったのはﾋﾞﾙﾏのｻｶﾞｲンという所で連隊本部付き曹長として駐在している時でした。当時、稲田会員の御祖父さんも特務機関員としてﾋﾞﾙﾏ独立を図る義勇軍(ｱｳﾝｻﾝｽｰﾁｰのお父さんが設立)を援助していたと聞いています。このﾋﾞﾙﾏでの戦いは白骨街道と言われた悲劇のｲﾝﾊﾟｰﾙ作戦となりました。父は昭和19年10月に師団命令により戦友の遺骨の内地移送指揮官となってﾋﾞﾙﾏのｷﾝﾀﾞﾝ基地を出発し、3か月の後昭和20年1月に無事丸亀に帰ってきました。父は満州事変に始まり昭和20年までの戦場での功績を認められ、33歳で兵役免除となりました。その後父は丸亀市港町にあった亀陽航空という飛行機の製造会社の副資材課長を務め終戦を迎えました。戦前までは明治17年生まれの祖父清一が米穀店を営み県内外の酒造会社に販売するなど手広く商売を行い、昭和12年の丸亀商工会議所設立時は常議員、一時期は市会議員をしていました。父は亀陽航空時代の経験から昭和22年より本格的に建築材料の販売を始め、昭和24年に有限会社、昭和24年6月に株式会社四国建材社を設立しました。その頃は祖父、両親、姉二人、妹二人そして私の8人家族で御供所町に住んでいました。

卓話2：四国建材社の歩み

戦後の経済は昭和25年の朝鮮戦争の特需による好景気、その後の昭和29年の神武景気、昭和33年の岩戸景気と続き、高度経済成長へと移行していきました。戦後の人口増加のおかげで需要が増え継続的な経済成長が続きました。建設業界も建設投資額が昭和51年に34兆円、平成4年のﾋﾟｰｸ時には84兆円と増加しました。このような環境下、当社も社業が順調に発展しました。多くの困難にも遭遇しましたが、創業当初から、事務所、店舗、倉庫建設なども必要に迫られ投資を行い、その傍ら大手町のﾃﾅﾝﾄﾋﾞﾙ、幸町のﾊｯﾋﾟｰﾀｳﾝ、ﾊｯﾋﾟｰﾏﾝｼｮﾝ等の不動産投資も行い、不動産業への足掛かりともなりました。近年は、幸いな事に同業他社との競争にも耐え、安定した経営ができるようになってきました。

卓話3：幼少期から丸亀青年会議所入会まで

私は城北小学校、東中学校、丸高を経て、昭和35年に明治大学商学部に入学しました。当時は、丸亀から東京まで夜行の急行瀬戸で12～13時間ぐらいかかる時代です。入学した年は日米安保条約改定闘争の時で、6月15日には国会内に学生とデモ隊が突入し、東大生の樺美智子さんが亡くなった事を思い起します。この当時の経験が私の政治に対する考え方に影響を与えたのではないかと思います。学生生活では当時経済学部長であった醍醐先生のゼミに入りゼミ長となってゼミの活動等と共に東京生活を楽しむ事ができました。ゼミ仲間とは50歳を過ぎた頃から付き合いが再開し毎年楽しい交流を続けています。昭和39年東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸの年に卒業し、当時の早川電機(ｼｬｰﾌﾟ)に就職し、姫路営業所へ赴任しました。短期間でしたが会社勤めを経験し、丸亀に戻ってきました。当時会社は1階が事務所兼店舗、2階、3階は自宅、4階は賃貸住宅の大手町のビルが出来ていました。家族経営のような建材店でしたが従業員と共に早朝から夜遅くまで頑張った商売をしていました。厳しい父の指導を受けながら営業、配送などを経験し、得意先やﾒｰｶｰの方々に揉まれながら、次第に仕事を覚えていきました。その頃、丸亀青年会議所が出来ると言う話を聞き、友達でも出来たらと言う軽い気持ちで入会をしました。

卓話4：青年会議所時代と選挙応援活動期

青年会議所入会の時は一番若い会員でしたが先輩や同期生に恵まれ大変勉強になりました。総務委員会に所属し定款、諸規定の作成を担当した事もその後の会の運営に非常に役に立ちました。設立総会は40名の会員で仮青年会議所として発足し、会員の拡大、組織の確立定款諸規定の整備等を行い、昭和41年日本青年会議所に承認され正式に青年会議所としてスタートしました。昭和51年34歳の時には香川ﾌﾞﾛｯｸ会長に就任しました。全国で最も若いﾌﾞﾛｯｸ長でした。ﾌﾞﾛｯｸ長として県内の各JCへ公式訪問、京都会議をはじめ全国大会、四国地区大会に参加するなど多忙な日々を過ごしました。地元丸亀でも第1回24時間お城村を開催し、今年で第43回を数えるまでになりました。小豆島大規模土石流災害に対しても小豆島JCへの支援物資を届けた事が思い出となっています。昭和54年には37歳で第14代理事長となり、山田俊文さんには専務理事になっていただき大変お世話になりました。

2018.8.23
Vol.56
№7
（2718）

40歳で無事17年間にわたる青年会議所時代を卒業しました。
　青年会議所卒業後は選挙の渦中に入っていきました。「あすなろ政経懇談会」では市長選挙、改称した「丸亀政経懇談会」では県会議員、市会議員を輩出する政経懇談会になりました。当時、秋山憲夫会員、和泉会員とも選挙戦等で苦労をともにしました。私が61歳の時に丸亀政経懇談会」は解散となりました。その頃中津万象園で開催されたオリエント学会講演に刺激され妻と二人でパリをかわきりにﾛｰﾏ、ｶｲﾛ、ﾙｸｿｰﾙ、ｱﾃﾈ、ｵﾘﾝﾋﾟｱ、ﾄﾛｲ、ｲｽﾀﾝﾌﾞｰﾙ等を数年かけて旅をしました。その旅では人の本質は3000年を経ても変わっていない事を実感し、「寛容、謙虚、忍耐」を持つ国は栄え、それを忘れた国は亡びるという史実を学びました。

卓話５：ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞについて

最初に話しましたように、平成7年伊藤会長の時に入会しました。当時の例会場は富屋町にあったさぬき信用金庫の建物の中にありました。私の入会推薦者は麻田先生と油井さんだと記憶しています。この入会時は父の友人や青年会議所時代の友人、知人が大勢いたお陰で、早くｸﾗﾌﾞになじめたと思います。入会して4年目に会員増強委員長、5年目に環境保全委員長、6年目に副幹事、7年目は幹事とつぎつぎと役職が回ってきました。平成14年の創立40周年には会長は赤澤さん、副会長は橘さん、幹事は私、副会長は小山さん、特別委員長は池田隆さん(途中、酒井昭蔵さんに交代)でスタートしました。記念事業では当時の日本ｻｯｶｰ協会ｷｬﾌﾟﾃﾝであった川渕三郎氏をお招きし、「ﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟとその残したもの」という演題で講演会を開催しました。40周年事業で本島の植樹活動を行い、日本人初の宇宙飛行士である秋山豊寛氏と出会ったのも思い出の一つです。平成16年山田登久晃会長の時にIMの主管が回ってきました。伊藤さんがｶﾞﾊﾞﾅｰ補佐をされた時です。この時IMの実行委員長に指名され、多くの方々の支援を得て無事大役を果たす事ができました。平成21年には67歳の時に会長に就任しました。政権が民主党に移りその後のﾘｰﾏﾝｼｮｯｸも影響し、景気が急速に減速した年でした。幹事が病に倒れる事もありましたが皆さま方のお陰で無事会長職を務める事ができました。平成23年小山会長の時は秋山憲夫さんがｶﾞﾊﾞﾅｰ補佐をされ、香川県ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ大会実行委員長の指名を受け、ｺﾞﾙﾌ同好会の協力で盛大なｺﾝﾍﾟを計画し、特に増田さんのご尽力で無事終えた事も思い出の一つです。平成24年は中野会長のもと50周年事業を行いました。この時は特別委員長として8つの記念事業と記念式典が実施された事がﾛｰﾀﾘｰの良い思い出になりました。継続事業となった「善行表彰」は特筆すべき事業であったと思います。**ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞでは毎年、役職が変わりますが、役職を受けた時はその役職になりきり、前向きに行動する事が修練であり、ﾛｰﾀﾘｰの神髄であると思います。**

卓話６：座右の銘

　最後になりますが私の大事にしている一言について話をさせていただきます。34歳の時に、名古屋で城山三郎という作家の話を聞く機会がありました。昭和2年生まれで故田中会員と同年配です。愛知県立工業専門学校在学中に海軍に志願入隊し、海軍特別幹部候補生として特攻隊の伏龍部隊に配属され訓練中に終戦を迎えた方です。「落日燃ゆ」「官僚たちの夏」等を執筆され直木賞、菊池寛賞等を受賞された方です。若い時に、祖国のために自分を捨て、死と向き合われた体験を聞きました。彼が言った一言が今でも心に残り座右の銘としてきました。それは**「前後裁断」、「今を生きよ」**と言う言葉です。沢庵禅師の言葉で過去と未来を断ち切って、今と言う瞬間に集中するという意味です。この言葉は丸亀ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞの40周年、50周年の記念しにも書かせていただいています。(前後裁断の墨書を披露)今年の1月1日には知覧特攻記念館へ行ってきました。特攻に志願された当時の若い人たちの映像や遺書を見て、思いを新たにしました。幼児期の最初の思い出が、敵機来襲、空襲警報発令という私にとりましては、生と死を経験された方の話はいつも深く感銘を受けます。
　ご清聴ありがとうございました。